



白馬鑓ヶ岳と杓子岳

北アルプスを見ながらスノーシューウォークである。

ツアーコンダクターは2013年に四国の瓶ヶ森などで御世話になった角田さんで、現地のガイドは2012年の大日岳や2013年の船窪小屋などで御世話になった泉さんである。長野県の山岳マイスターにも指名されているらしい。船窪の時に、“俺はライチョウが飛ぶのを見たことがあるよ”と言ったら、周りのだれも信用しなかつた。



その時、“30 km飛んだ記録があります”と助け舟を出してくれた。ライチョウの調査員の肩書も持つらしい。そんな人が森の中を歩き回りながら、“これはクルミの木です。ここに特徴があります”とか“この足跡はウサギのもので、後ろ足の方が前足よりも前に出

ています。それは飛び跳ね方がこうだからです”などと説明をしながら歩いてくれる。

ホテルで靴を脱いでいるときに、“あら！ あら！”と女性から声をかけられた。どこかで見た思いはあるが、思い出せない。例によってアルコール・ハイマー型認知症である。“確か、去年の北海道の大千軒岳や、その前の年の岩菅山でお会いしています。”と言われた。後で、夕食の時にお酒を注文するときに、“I ナダです”と言っているのを聞いてはっきり思い出した。大千軒岳の時には山の話で結構盛り上がりすぎてずいぶんと話したものだ。今回は男が5人と女が9人のメンバーである。男は、私以外2日目の朝に温泉に入っていたようであるので、あまり山のベテランとは言い難い。一人は「東京のぼろう会」に入っているというので、かつて、ヒマラヤのゴークョピークで一緒した「東京のぼろう会」の重鎮であった野本秀旺さんはどうされていますか？と聞いたら、昨年亡くなられたということであった。

2週間前の上高地は雪の積もった自動車道をスノーシューで歩いたわけであるが、今回は山の中を歩き回ったので、距離的には短かったが別の意味での楽しさがあった。といっても、登りはゴンドラに乗って岩岳山に登ってしまっていて高度差の少ない朴ノ木平まで歩いて、降りには歩くという行程であったのでまあ楽なものであった。天気も快晴無風で、ずいぶん恵まれた山行であった。

